

OJT研修感想文

kuroric

三島一日目①

意識が高い、とか、積極的、とか。そんなことは全くなかった。

父に、行くか、と言われ、行く、と答えた。ただそれだけ。それが今回のOJT研修の始まりだった。僕が参加したD日程の開始日は3月16日。東京駅に9:30集合。父の車で送ってもらった。当然のことだが周りは大学生ばかり。突然、高校生の自分がいることが場違いに感じられた。

そのまま皆で新幹線に乗りこんだ。隣の席のI・YさんとK・Nさんに、何年生ですか、と聞かれ、高校生です、と答えると二人とも驚いたが嫌な顔はせず気さくに色々な話をしてくれた。

大学生の大人びた姿勢に普段周りにはいる高校生との違いを感じたし、またお二人がお話の中で、今度世界一周しようと思う、などとさらっと言っているのを聞いて大学生の行動力を思い知った

。

一時間ほどで静岡の三島に到着し、東横インに荷物を預け日大に向かった。その道すがら、K・Sさんともお話をさせていただいた。彼も僕が自分の年齢を告げると驚いたがとても面倒見のいい方でその後何かとお世話になった。大学の学食で適当に各自昼食を食べ講義を受けた。

初めに、今日の講義はNPOについて、と言われた時は狐に

三島一日目②

つままれたような感じがした。

まだろくな作品も書いてないような僕が言うのもおかしな話だが、作家、もしくはそれを志す者というのは(少なくとも僕の場合に限って言えば)他人の幸福なんかに関心も興味もない。政治も、経済も、教育も、多くの仕事は他人のために存在するものだと思いが、僕がそれらに関心を示さないのも、そういった性格が作用しているものと思われる。

さて、そんな僕がわざわざ三島まで来てやれと言われたのが非営利団体の勉強である。これはどうしたものか、と初めは思った。時期尚早、という言葉が頭の中をぐるぐると駆け巡った。何だか分からないまま来てしまったことを後悔した。5日間を適当に流してさっさと帰ろうと、その時は思った。

だから自分から積極的に周りの人に話しかけることはしなかった。周りが大学生や社会人の方ばかりで萎縮している面もあった。今思うと本当にあつかいにくい奴だったと思う。

さらに言うならば僕はグラウンドワーク三島(NPO法人。源兵衛川という川に代表される、三島の自然を汚染された状態から復活させ、その後も幅広い活動を行っている。)

三島一日目③

の渡辺事務局長がどうも苦手だった。詳しくはあまり言わないでおく。

さて、そんなわけで自分の殻に閉じこもっていた僕だったが、三島に来た方達はそんな僕にもたくさん話しかけてくださった。

先ほどのK・Sさんなどがそうであるが、全体を通してそれ以外にも多くの人と名刺を交換させていただいた。

三島二日目、三日目①

一日目は講義中心であったのに対し、二日目は体験実習であった。源兵衛川やその他、渡辺さんたちが復活させてきた三島の豊かな自然を見るうちに何となく心が揺れ動くのを感じた。人のために働いて生計を立てるよりもできれば自分の好きなことで食べていきたい、まして非営利で地域のために活動するなんてもってのほか、とまで思っていた僕にとってその感情は未知のものだった。どうしてグラウンドワーク三島の活動がこんなに魅力的に思えるのだろう、とその時は不思議で仕方なかった。

三日目はNPOの本場、英国から英国グラウンドワークのロビン・ヘンショウ氏が来日された。僕は英語を聴くのが趣味と言ってもいいほど大好きで、その日だけは朝からワクワクしていた。おかげで彼の発音の美しさに気を取られて講義の内容はさっぱり頭に入ってこなかった。

午後は二人の講師による講演で、一人目の北岡先生のお話は、他人とあえて違うことをする意味について、というのが大まかな概要であったと捉えているが、人と違うことをしたいというのは私の強い作家志望の僕としては常日頃思っていることであったのですんなりと受け入れることができた。それを踏まえると、同級生が春休み中の今、大学生や社会人と一緒に過ごせる僕はものすごく貴重な経験を

三島二日目、三日目②

させていただいているのだということにようやく気づいた。

二人目の関さんの講演を聞いている途中、ふっとNPO活動のアイデアが湧いてきた。それというのも、翌日は各個人でビジネスプランを実際に考えて発表するということを聞いて焦っていたからなのだが、しかし一度アイデアが浮かんでしまうとそれがどんどん膨らんでいった。講義そっちのけで夢中になって自分の考えを広げていった。そうこうするうち四日目の講義は終わってしまったわけだが、ここでどうしてもしておきたい話の一つある。その夜の夕食について。

一日目、二日目は両日とも渡辺事務局長の提案で交流会(つまり飲み会)が開かれていた。僕は未成年なので、飲み会には行かず一人でご飯を食べていたが、それを見かねたK・Sさんが今日は飲まないからと言って夕食に誘ってくださった。

そのおかげで新たに何人かの人と知り合えたし、とても楽しかった。K・Sさんには感謝している。

三島四日目、五日目①

さて四日目であるが、前日までの予定通りビジネスプランを作成しグループ内で発表した。僕のビジネスプランの詳細についてはここでは割愛させていただく。

ちなみに、僕のグループにミミさんというカリフォルニアから来られた外国人の方がおられたが、英語が趣味の僕はまたしても発音の方に聞き入ってしまった。

さて、グループ毎の発表が終わった後はグループで一人代表を決めて全体発表という流れであったが、前述のミミさんをはじめグループの人たちに最年少だから、という何だかよく分からない理由で推されて僕が発表をすることになってしまった。

苦笑して首を振りつつ、そしていざ発表が始まれば緊張でどもりつつ、どうにか自分の考えを会場の皆さんに伝えたわけだが、その時なんとなく、楽しい、と感じた。自分の考えを人に伝えるのが楽しい。その感情はとても新鮮なものだった。

発表の場で高校生であることを言ったおかげで、様々な方から声をかけられ、頑張れよ、と激励していただいた。高校生で来るなんて意識が高くてすごい、とおっしゃって下さった方も多かったが冒頭にも書いた通り三島に来るまでそれほど積極的に動いたわけではないので肩身が狭かつ

三島四日目、五日目②

た。

その夜は会費が500円でいいと渡辺さんがおっしゃられたので最後の夜であったし交流会に行ってみることにした。色々な人と色々な話をさせていただいた。それこそお菓子で何が美味しいとか、そんな日常的な会話から哲学の話まで様々なジャンルの話をした。非常に刺激的で楽しい夜だった。

五日目は、今回の研修で学んだことをグループに分かれて共有した。

もう記憶が定かではないが、自分のやっていることをある人は認めてくれなかったとしても、必ず評価してくれる人はいるのだ、というようなことを言ったように思う。

その後希望者が全体に向けて自分の気づいたことを発表し、渡辺事務局長からの応援メッセージを頂いて三島での研修は終了となった。

僕は解散後熱海観光に行ったのだが、それについて詳しく語るのはまた別の機会にしようと思う。

さて20日夜に東京に帰った僕は放射能騒ぎが少し収まりつつあるのを感じながら21日をだらだらと過ごし、22日からのダイヤモンド社の、メンター・ダイヤモンドという学生記者クラブでのOJT研修に向かうこととなる。

OJT研修一日目①

22日の午前10時30分に原宿にあるダイヤモンド社のビル9階に集合。

僕と同じD日程で三島に行った人は割合多く、皆仲良さげに談話していた。

開校式。メンター・ダイヤモンドを設立した大木さんという方がお話をされた。

すぐ隣に会議室があるのにうるさすぎる。研修生なんだからここにいる5日間はプロ意識を持ってやらなければならない。のっけからそんなことを言われた。厳しい人だな、と思った。今だから言うが初めは多少の嫌悪感を抱いた。

その日、外では雨が降っていた。開校式の次に予定されていたミステリー活動(その時点では活動内容は知らされていなかった)は外での活動なので後回しにされ、「なぜ掃除をすると人生が変わるのか」というテーマの講演が先に行われることになった。

実は以前にも僕は、掃除をすると人生が変わる、と述べる書物を読んだことがあった。でもどうしてもそれがその時はピンと来なかった。

もともと掃除や整理整頓は苦手だし、そもそも掃除が成功につながる、という因果関係が理解できなかったのだ。その日の講師は志賀内泰弘氏。前述のような経験から、正直

OJT研修一日目②

言ってあまり期待していなかった。しかし実際に講義を聞いてみて仰天した。まさに目からウロコだった。

まず彼のお話の説得力に驚いた。以前読んだ本では掃除と成功の関係は論理的に説明されておらず、掃除をしていたら自分は成功できた。だからとりあえず掃除をしろ、と言った論調で書かれていたのに対し、志賀内さんの説明は明確で分かりやすかった。掃除をすると小さなことにも気づきやすくなり、それが仕事にも役立つ、というのが大まかな論旨であったが、三島で受けたどの講義よりも注意深く聞いたし、それが全然苦ではなかった。

さらに、志賀内さんの持つ具体例の豊富さに驚いた。まず志賀内さんはささいなことからでも何かを学び、自分の人生に生かしていた。どんなにくだらなく見えることからでも学んで教訓とする。それこそが彼の言う"気づき"なのだと感じた。

志賀内さんの講演を聞いていて思い出したことがある。三島から帰ってきた夜に父親に感想を聞かれた時の話だ。僕が率直に、ある講師の話が分かりにくかった、と答えると父は笑って、それも勉強だよ、と言った。その講師の方の話し方のどこが分かりにくいと感じたのか。逆にそれを改善するにはどうしたらいいのか。それを考えてみたら何か

OJT研修一日目③

発見できるかもしれない。そう言われた。

人生におけるどんな小さな事にも気を配りそこから何かを学び取る姿勢。それが肝要なのだと悟った。

さて、志賀内さんの講義が終わり、後に回されたミステリー活動の時間となった。ミステリー活動の内容は、と言ってメンターのスタッフの方がにやっと笑った。

掃除をしてもらいます。

そう言われても、不思議とそれが当然のことのよう思えた。むしろ言われなくともやりたいとさえ思った。

数人で一組になって原宿の街を歩いた。手には携帯でもおしゃれなバッグでもなくゴミ袋とトング。道行く人の訝しげな視線を感じた。

一回きりではなく何度も掃除を続けるうちに見えてくるものがある。志賀内さんはそうおっしゃった。家に帰ったらすぐに掃除をしよう、整理整頓の苦手な僕がそう思ったのだからこれは相当のことである。それほど志賀内さんの話の説得力があり、講演の直後に掃除を実践するというプログラムに構成の妙があったということなのだろう。

掃除から帰った後は大木さんが取材依頼状の書き方について形式上おさえるべき点を教えてくださった。取材に行き

OJT研修一日目④

たい人はその形式にのっとして企画書を書き提出すれば実際に取材させてもらえるかもしれないということだった。

さて、研修一日目をなんとか無事に終えた僕は家に帰ると早速部屋の掃除を始めた。それまではただめんどくさいだけだった掃除が、少し意識するだけでたちまち創意工夫の場が変わった。合理的に、そして一番楽に散乱しているものを整理するにはどうしたらよいか。掃除をしながら自分の脳が活発に動いているのを感じた。これを続ければ何か大きなものを得られるかもしれない。掛け値なしにそう思った。

OJT研修二日目①

二日目。10時集合。その日は朝から一日目と同じようにダイヤモンド社周辺の清掃を行った。ただし皆スーツ姿である。その日は元アナウンサーの原律子さんによる面接練習があるのだった。(スーツを持っていない僕は学校の制服を着ていった。)

清掃が終わって昼食を食べるといよいよ面接練習の時間である。第一印象を良くする挨拶のしかたということで、大学名と名前を言って、よろしく申し上げますと言えばよいとのことだったが、就活の経験なんて全くない僕はスーツを着てすっかり社会人と変わらない姿の大学生に囲まれてかなり緊張していた。

一人ずつ挨拶をし、それを見て原さんがA～Cの3ランクに分ける。全員が挨拶を終えた後、圧倒的に多いのはCで、続いてB、Aはたったの4人だけだった。僕はCだった。

原さんはとても親しみやすそうな女性で、講義も分かりやすかった。ハキハキと、面接官に声を届けるつもりで話すこと、そのために口をしっかりと動かすこと、しっかりと立ち止まってから話し始め、完全に話し終わってからお辞儀をすること。どれも基本的なことばかりであったが意外にも自分ができていないことに気づかされた。そして講義の最後にもう一度一人ずつ挨拶をした時には自分の発声や立

OJT研修二日目②

ち居振る舞いが見違えるようになっていたのを感じた。面接の練習ということではあったが取材で初対面の人と会う時など様々な場面で使えることだと思った。

面接練習の後はFP講座だった。主に所得税について学んだが、税金を自分で払ったことなど一度もない僕には聞いたことのない単語ばかりで話について行くのに苦労した。

二日目の夜も家では部屋の掃除の続きをした。さすがに二日も続けると机の上など目に見えて綺麗になった。感動して思わず写真を撮ってしまったのを覚えている。

OJT研修三日目①

三日目も朝は清掃。その日は大木さんが僕たちの班に同行された。大木さんの導く通りに進んで行くと、何やら裏通りのような所に出たが、なんとそこには僕たちと同じようにゴミ袋とトングを持って楽しげに歩く集団がいるではないか。初めはメンター・ダイヤモンドの違う班と遭遇したのかとも思ったが顔ぶれを見るにそうではない。僕たちの他にも原宿を清掃している団体がいたのである。その団体の責任者とおぼしき人は、大木さんにどの道を通ってきたか聞くと、その道とは違う方向、つまりまだ清掃の手が及んでない地域に向かって歩いて行った。原宿に落ちているゴミを拾って歩くような物好きなんて僕達以外にいるはずもないと思っていたから、この出来事は衝撃的であった。自分のしていることがどんなに奇妙に思えても、同じようなことを考える人はいるものだし、後から賛同してくれる人もたくさんいるのだと知った。三島での研修を通して気づいたことを再認識させられたわけである。

その日の午後はマーケティング調査を行った。というよりは、調査された、という方が正確かもしれない。10種類のお茶と紅茶を飲み、10種類の歯磨き粉で歯を磨いた。その日の僕たちが世界一歯のキレイな集団であったことは言うまでもない。

OJT研修三日目②

和気あいあいとした雰囲気でのマーケティングから一変、次の講義はとても重い内容だった。

「映像が世界を変える」というタイトルの講演であったが、広島・長崎における被曝者が世界中に核兵器の恐ろしさを"証言"しに行った様子を写したドキュメントを見た。監督が僕たちと同年代であるということで、共感できる内容だったし同時に自分には何ができるだろうかと考えさせられもした。

映像が人に与える影響力は絶大だ。それは音声と共に生々しい臨場感を持って人に迫り、時に感じ得ないはずの匂いや刺激まで想起させたりする。

でも、と僕はその時思った。映像ではない表現媒体にしかできないこともあるのではないだろうか。

例えば音楽。端的な歌詞は時として人の心に突き刺さる。現代人にとって最も身近な芸術。

そして文章。映像には盛り込めない感覚も文章なら表現できる。風が体の中を通り抜ける感覚。

熱風にひりつく頬の痛み。実際に見せて、聞かせて体感させるのではなく文字から想像させることで初めて感じる心の動きもある。

やろう、と思った。少し大げさに言うならば、自分が生涯を通して書いていくであろうものの方向性がこの時定まっ

OJT研修三日目③

た。愛と平和。少し前までならこんな青臭いテーマで書こうなんて思いもしなかった。関根さんの講演は、そんな僕の意識を一瞬で180度転換させるのに十分だった。

その夜、ともすればまぶたが閉じそうになる中で立て続けに2編、平和に関する掌編を書いた。Twitterの140字制限の中で書いているのでストーリー性もあまりなく、ただの散文と言った方が正しいかもしれない。しかし立派な作品であることには変わりないと思っている(Twitterのアカウントは@aitokus)。今後同じテーマの作品を書き溜めて、いつか英訳して世界中に配って回れないだろうか、なんていう途方もない考えも浮かんだ。いつか実現できればそれこそ夢のようだと思う。

OJT研修四日目①

翌日の朝、四回目の清掃。この頃になるとどこにゴミが落ちているかや、タバコを一度にたくさん拾う方法などノウハウが少し見えてきた。なんとなくではあるが気づきを得ることができているのだろうか、少し嬉しかった。

今考えるとこの嬉しさこそが三島で源兵衛川を見た時に感じた得体のしれない感情の正体だったのかもしれない。自分ではない誰かのために工夫を凝らし汗水たらして働く。その結果自分も目には見えないが大きな成果を得られ同時に他人も幸せになる。このことが僕の目にはたまらなく魅力的に映った。一緒に三島に行った人たちの中にも僕と同じような感覚を得た人も多いかもしい。

さて、その日は雑誌の編集に関する講義が中心だった。

週刊朝日の編集長、山口さんの講演に始まり大木さんがメンター・ダイヤモンドの理念を語るまで、講義を聞いていて感じたのは社会人の持つ情熱や信念の強さだった。

政治の迷走や大手企業の不祥事、芸能界、角界の薬物問題。権威ある大人の起こす度重なる社会問題に、僕がそれまで大人に対して抱いていた信用はこの頃では跡形もなく崩れ去っていた。

それでも、社会を構成する一員として自分の仕事を精一杯こなそうとする大木さんたちの姿、その姿に少しでも近づ

OJT研修四日目②

こうと熱心に講義を受ける大学生の方々の姿勢を見るうちに僕の持っていた大人に対する不信感がわずかながら解消されていくのを感じた。同時に自分も、理想とする大人になれるようできる限りの努力をしようと誓った。

OJT研修五日目①

五日目。メンター・ダイヤモンドでのOJT研修もこの日で最後である。

最後の清掃。二度と原宿の街の中でゴミ袋を持って歩くことなんてないだろう。歩道の脇の茂みに煙草の吸殻やガムは落ちていないか、歩道と車道の境の段差はどうか、そんなことに気を配って歩いた。一日目よりも明らかに効率は上がっていた。

社に帰るとまず初めに行なったのは五日間の清掃で何を学んだかのシェアリングであった。ゴミを出さないために企業や行政はどうすべきか、という意見から、掃除に対して抱いているネガティブなイメージを払拭するにはどうしたらよいか、という考えまで様々なものがあった。そのどれもが、実際に動いてみなければ得ることのできない気づきと学びに満ちていた。

休憩をはさんで次は、東北・関東大震災について、グループに分かれて話し合った。

震災の時自分は何をしていたか、体験談をひとしきりお菓子を食べながら話した後、三島の研修に参加した学生で実際に宮城県で被災した佐藤さんという方に電話を繋いでお話を聞いた。自分も疲労が溜まっているであろうに、自宅に帰ってからは避難所でボランティア活動をしているとい

OJT研修五日目②

うのだから、被災していない自分達が何もしないわけにはいかないと思った。

電話の後、グループを替えながら被災地に対して自分たちは何ができるかを考え、意見を出し合った。みんな真剣だった。

最後にグループ毎に出た案をまとめ全体に向けて発表した。その案を聞いていて僕は鳥肌が立ってしまった。

目下の原発事故や救援物資の確保、輸送に政府が血眼になっている今、皆が出した案はどれも"次の"震災を見据えたものだった。どの案も、被災地に救助の手は差し伸べつつ、そこから震災後の救助のノウハウを学び取り、日本人である以上必ず経験することになるであろう次の大震災に生かそうとしていた。

学生である自分たちだからこそ考えつく前向きな提案だと思ったし、志賀内さんの言う"気づき"がここにも伝わっていると感じた。この前向きさを絶対に自分達だけで留めてはならない、周囲に伝えていかなければならない、そんな使命感に駆られた。

震災についてという重いテーマの話し合いなのに思いもかけず希望に満ちたまま、閉校式をして五日間のOJT研修は終了となった。閉校式の様子については詳しく言わないこ

OJT研修五日目③

とにするが、かなり盛り上がったことは述べておこうと思う。

しかし五日間の締めくくりは閉校式ではなかった。飲み会である。渋谷の居酒屋に30人ほど(うろ覚え)で飲みに行った。軽い調子でお酒を勧められたりもしたがもちろん僕はウーロン茶でやり過ぎた。

T・Tさんという方がいた。その場で一番飲んで(飲まされて)おられたが、一次会が終わった後、二次会にはさすがに行かずに帰る僕にまわらない口で10分ほど熱く語って下さったが半分くらいしか何を言っているのか分からなかった。ただ彼の名誉のために一つ追記しておくとしたら、彼の熱い思いが伝わって僕も思わず泣きそうになってしまったということだ。今度は是非彼と酒を酌み交わしたいと思う。

まとめ①

今回の研修で僕は様々なものを見た。受験生には"ゴール"とされる大学生の本当の姿。自分の国の将来について真剣に考え、かつ自らの行動力を活かして精力的に活動していた。

高校生には縁の薄い社会人の方々。先の見えない世の中でも、次の世代のために少しでもいい社会を残したいと、身を粉にして努力しておられた。

志賀内さんに教えられたのは、何事からも学ぼうとする謙虚な姿勢。

私は何も学びとることがないほど、無知な人に出会ったことはない。

ガリレオの言葉とその思想はリンクして聞こえる。

初めは軽い気持ちで参加した今回の研修で、僕はこの他にもたくさんを知り、身につけ、また実践した。それこそ、よい経験をした、などと一言に表すことなんてできないほどである。

初めこそ消極的だったもののこの研修は僕の人生にとって大きなプラスになったと思うし、志賀内さんや一緒に過ごした大学生の皆さんが口を揃えておっしゃるように物事を始めるのに早すぎることなんてないと思う。

三島、ダイヤモンド社での研修においてお世話になった全

まとめ②

ての方々にお礼を述べるとともに、これを読んだ僕と同じ高校生が、自分の本当にやりたいことに向かって失敗を恐れずに何らかのアクションを起こすことを願って、合計10日間に渡る研修の締めくくりとしようと思う。

P.S.文中に出てくるイニシャルは(姓)・(名)の順です。一緒に研修を受けて下さった方は誰のことか考えてお楽しみ下さい。

そして最後になってしまいました。今回の研修でお世話になった方全員のことを僕は人生の恩人だと思っています。ありがとうございました。